

社会意識に関する仙台市民調査

ご回答へのお礼と結果報告書

1997年12月

調査主体 仙台市青葉区川内 東北大学文学部
行動科学研究室 教授 原 純輔
実査担当 東京都豊島区西池袋3 立教大学社会学部
産業関係学科 講師 村瀬洋一
電話 03-3985-2311

ご協力に対する謝辞

先日は、私どもが実施いたしました「社会意識に関する仙台市民調査」にご協力いただき、まことにありがとうございました。みなさまのご理解により、貴重な調査結果を得ることができ、深く感謝しております。

このたび調査結果の報告書を作成いたしましたので、ご覧いただければ幸いです。これは、主な項目について結果を要約したものとなっております。

このような調査の場合、1000人以上のご回答を整理してコンピューターに入力した上での、データ作成作業や分析にはかなりの時間を必要とします。そのため、結果のお知らせの完成には、通例、半年以上の時間を要してしまいます。みなさまへの報告書ご送付が遅くなりましたことを、深くお詫び申し上げます。

なお、ご協力のお礼として粗品を同封させていただきました。

今後のお問い合わせ先について

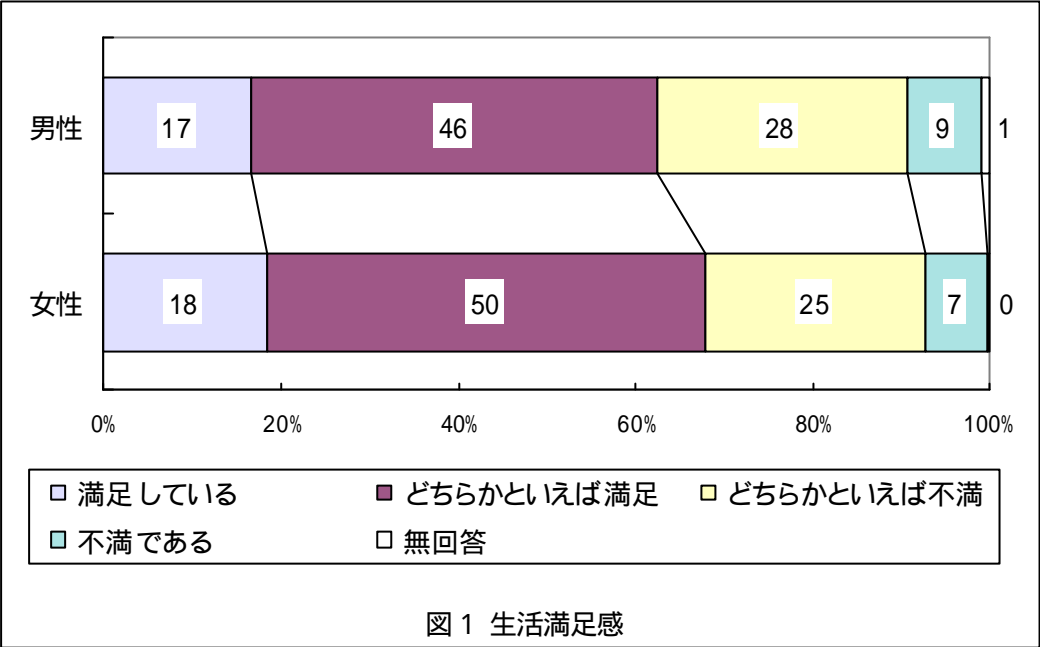
実査担当者が東北大学より転出し、1997年10月より立教大学に所属が変更となっておりますので、報告書は立教大学から発送させていただいております。

今後数年かけて、調査結果をさらに分析し、学会や学術論文にて発表していく予定であります。この調査に関するご感想や、より詳しい分析結果等に関してお問い合わせがありましたら、上記実査担当者までご連絡いただけますよう、お願い申し上げます。

1. 一般的な社会意識について

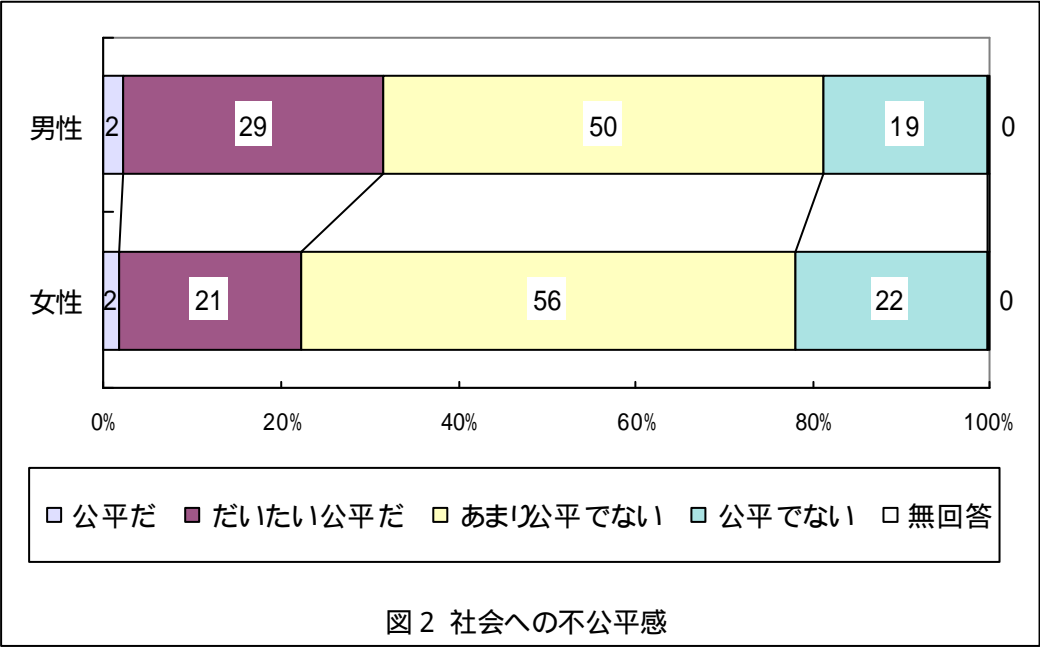
1.1.生活満足感

現在の自分の生活について、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせて、男性では6割強、女性では7割近くが、生活に満足していると回答。女性の方が若干、満足感が強い。



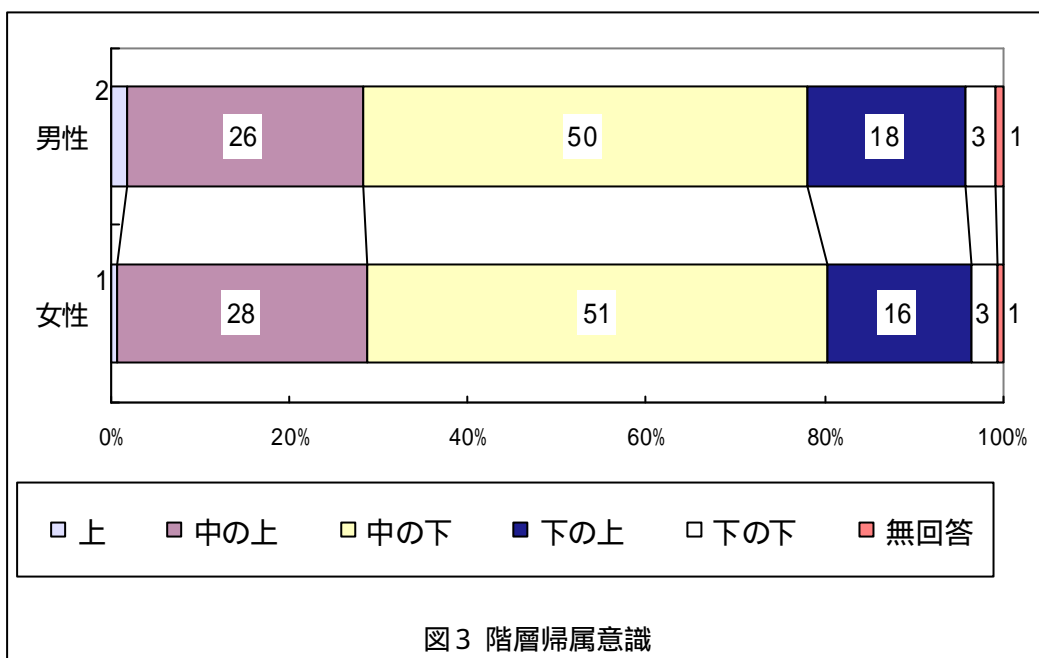
1.2.社会への不公平感

今の世の中について、「公平だ」と「だいたい公平だ」を合わせて、男性で3割強、女性で2割強が公平と回答。不公平という答えの方が、圧倒的に多い。生活満足感と比べ、社会に対する評価は厳しいようだ。女性の不公平感は男性よりも強い。女性の方が、社会の中で多くの不公平を感じていることの反映であろうか。



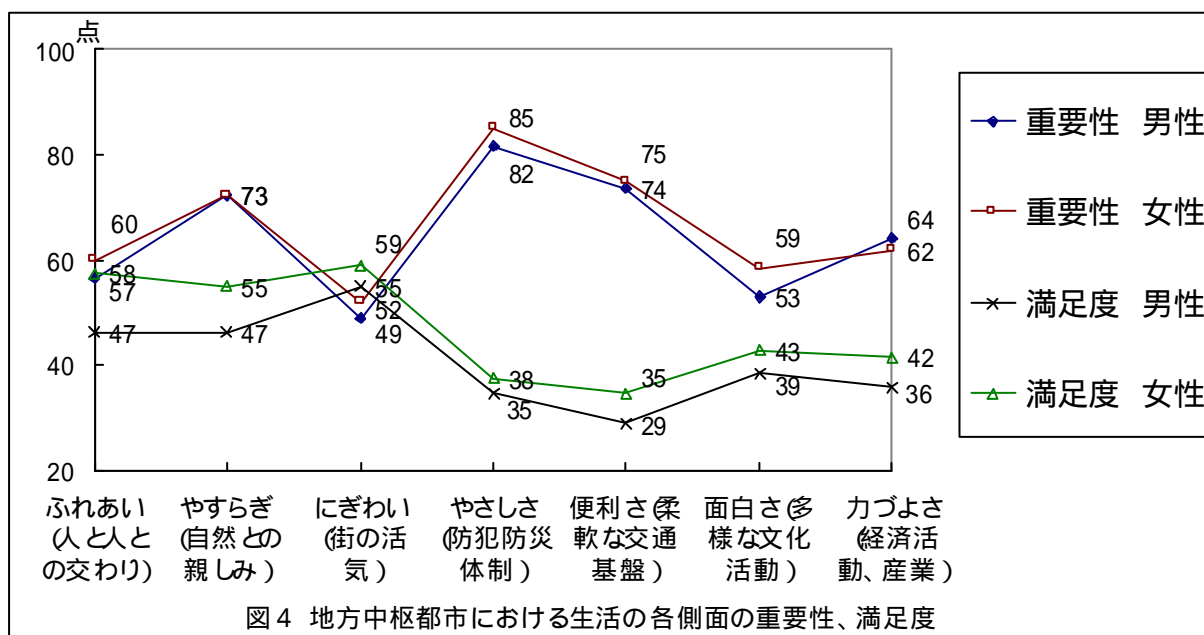
1.3. 階層帰属意識

「中の上」と「中の下」を合わせて、男女とも8割近くが自分自身を中と回答。



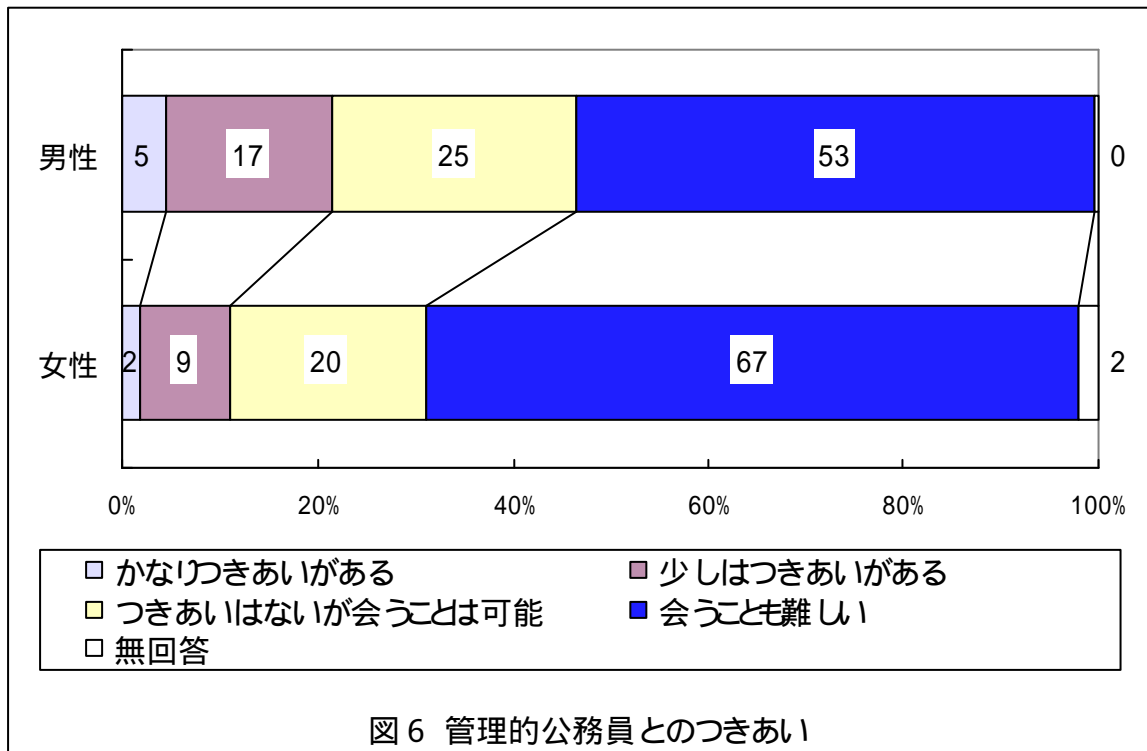
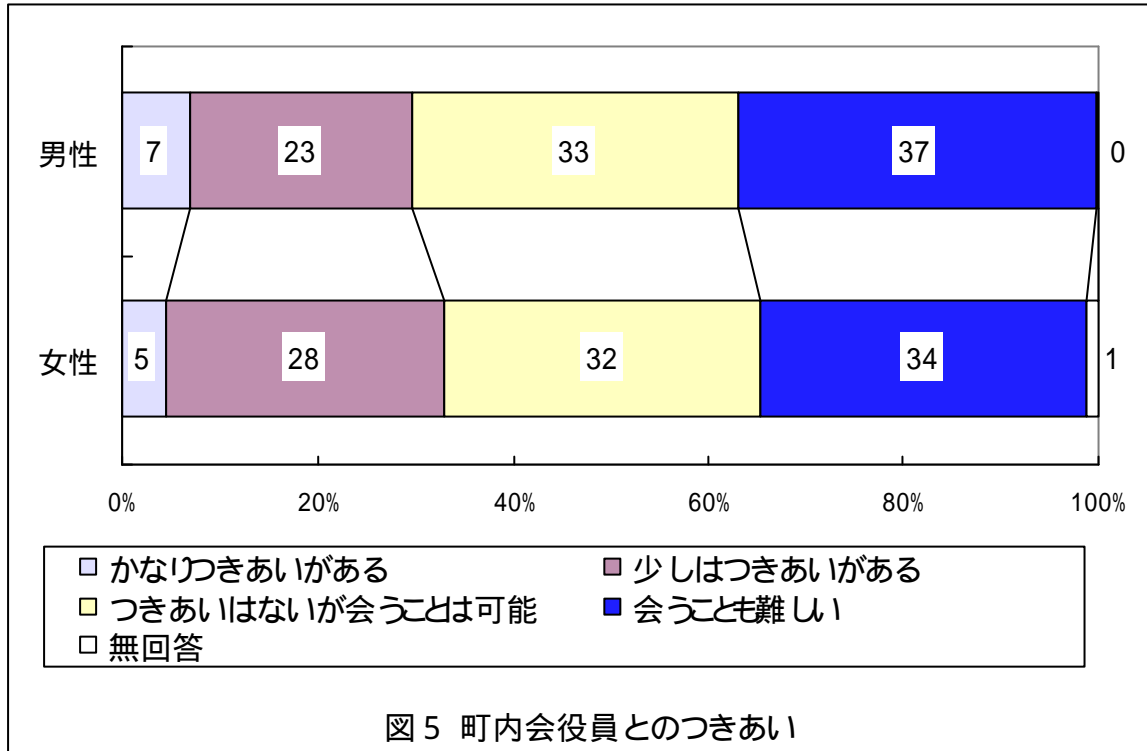
2. 街作りへの意見

地方中枢都市での生活上の重要性、満足度について、3段階の回答を100、50、0という得点に直し、平均値をグラフ化した。ふれあいや安らぎ、にぎわいは、比較的満足している人が多いことが分かった。満足度には、男女差はあまりないが、生活満足感と同様、女性の方がすべての項目において満足度が高い。やさしさ、便利さについては、重要という答えが多いが、満足している人は少ない。男女差はあまりない。

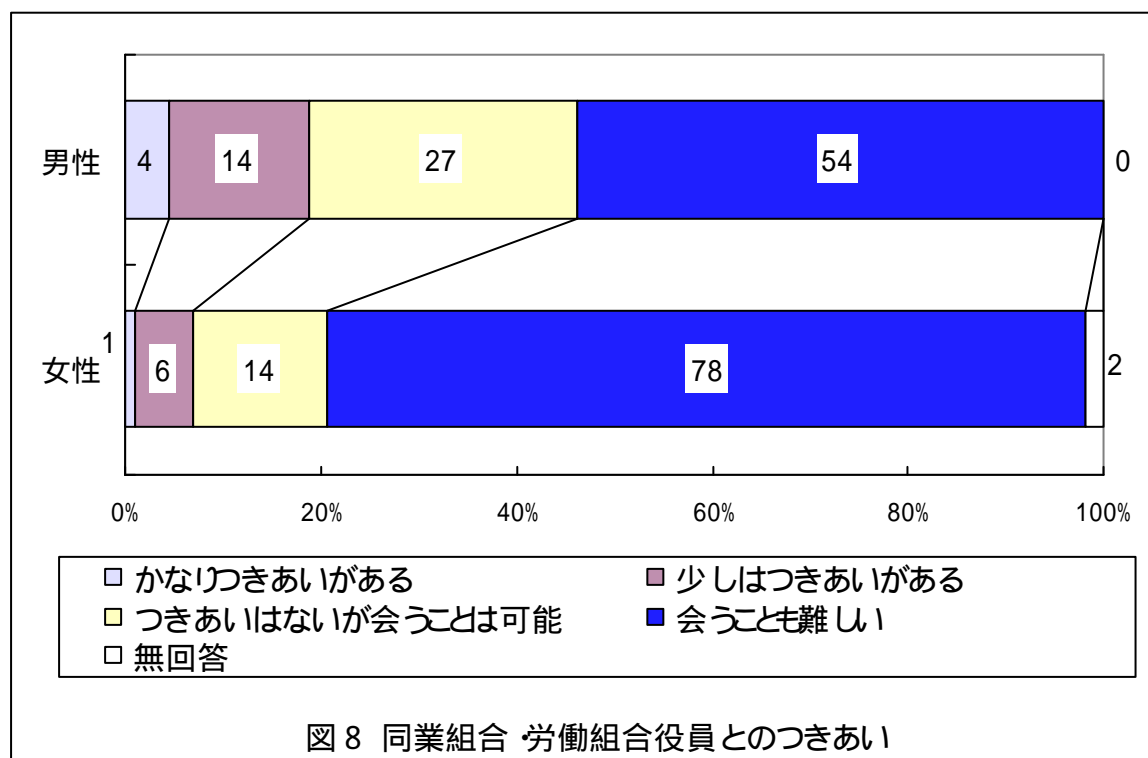
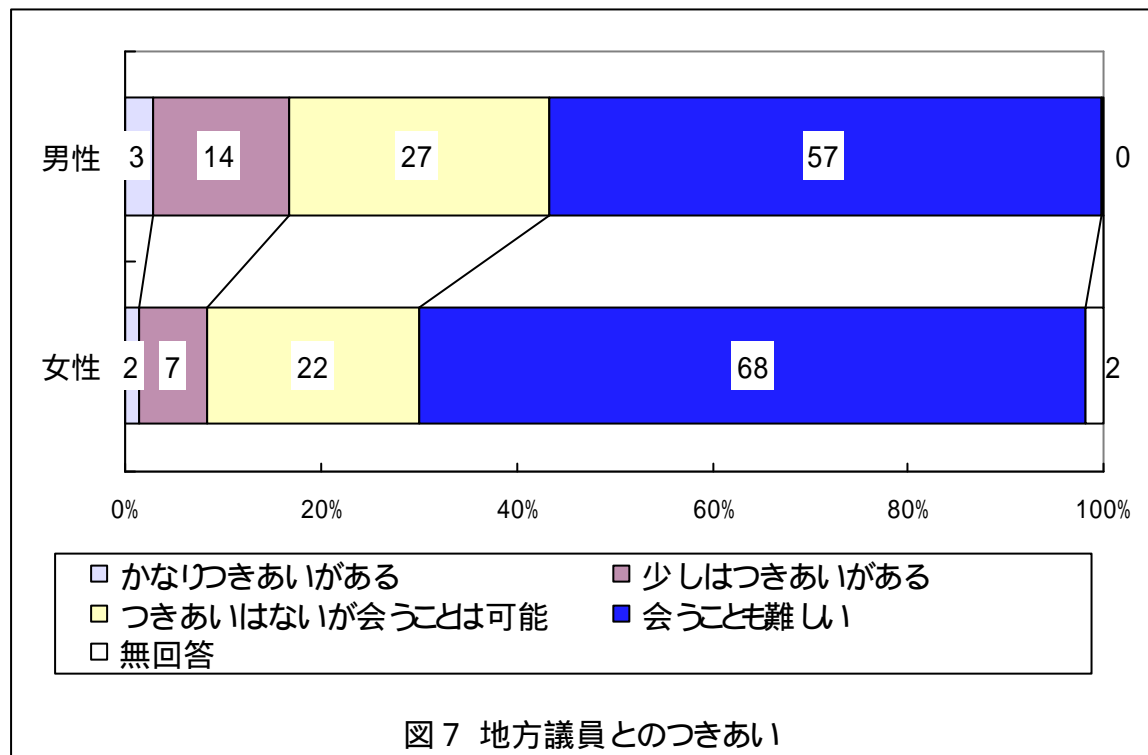


3. 近隣との人間関係

町内会役員とのつきあいに関しては、男女差はあまりなく、「かなりつきあいがある」、「少しはつきあいがある」を合わせて3割程度がつきあいがある。管理的公務員とのつきあいは、男性の方が多い。



地方議員とのつきあいは、男性で2割弱、女性で1割弱がつきあいがあると回答。同業組合や労働組合役員とのつきあいも、男性が多く、2割近くがつきあいがある。人間関係の保有は、地域社会に関するもの以外では、おおむね男性の方が多いようだ。



4 . 政治への意識、政策への意見

4.1. 政治の有効性感覚

政治に対する自分の力（図9）について、政治を変えることはできないという回答が男性で7割程度、女性では8割近く、無力感が強い。政府や政党が、自分たちの意見を代表するか（図10、図11）については、否定的な回答が8割～9割となっている。

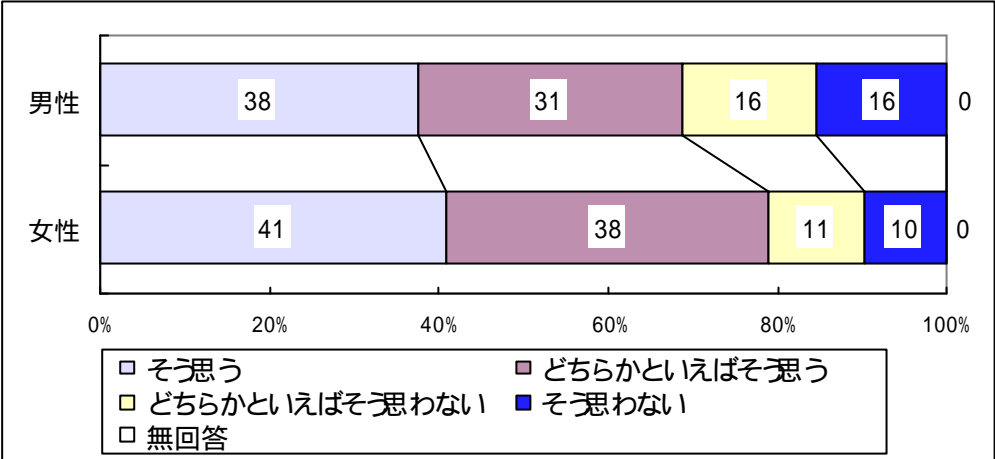


図9 自分がいくら頑張ったところで政治を変えることはできない

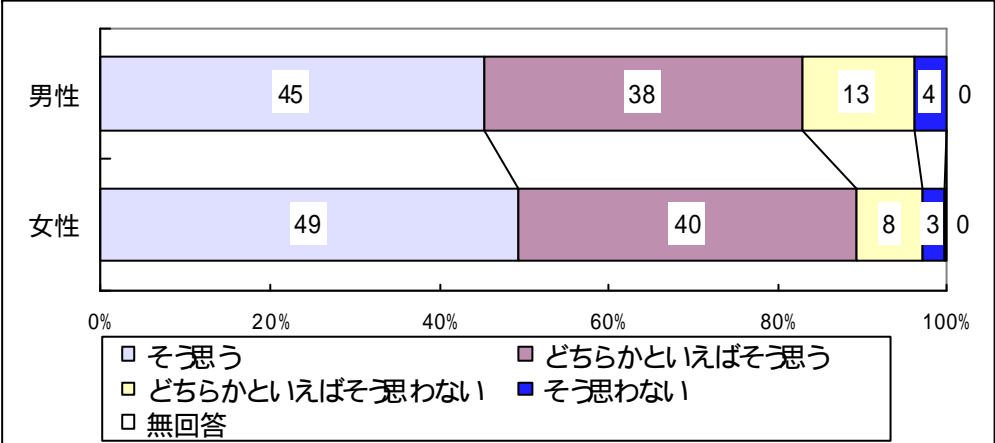


図10 国民の意見や希望は、国の政治にはほとんど反映されていない

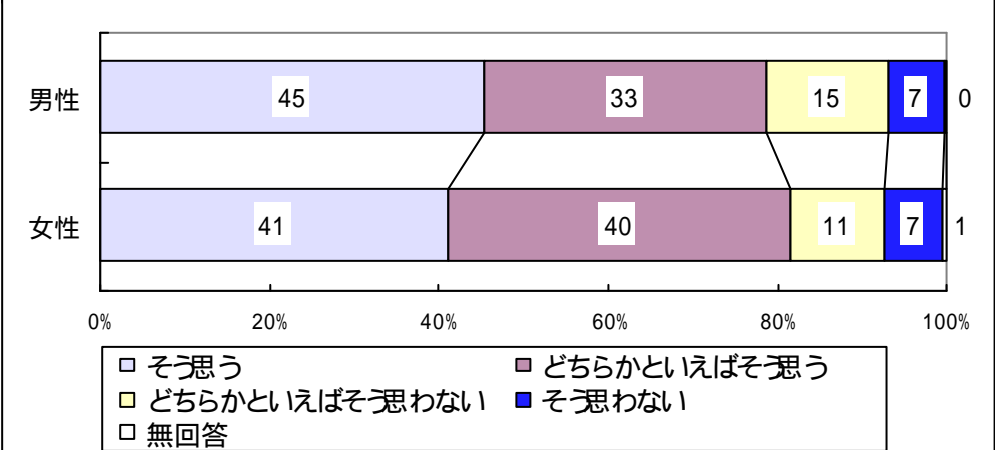
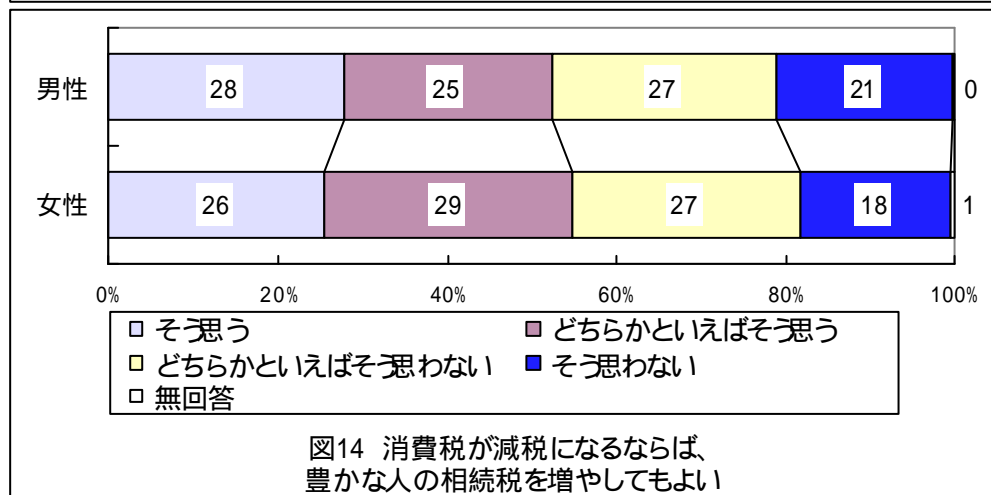
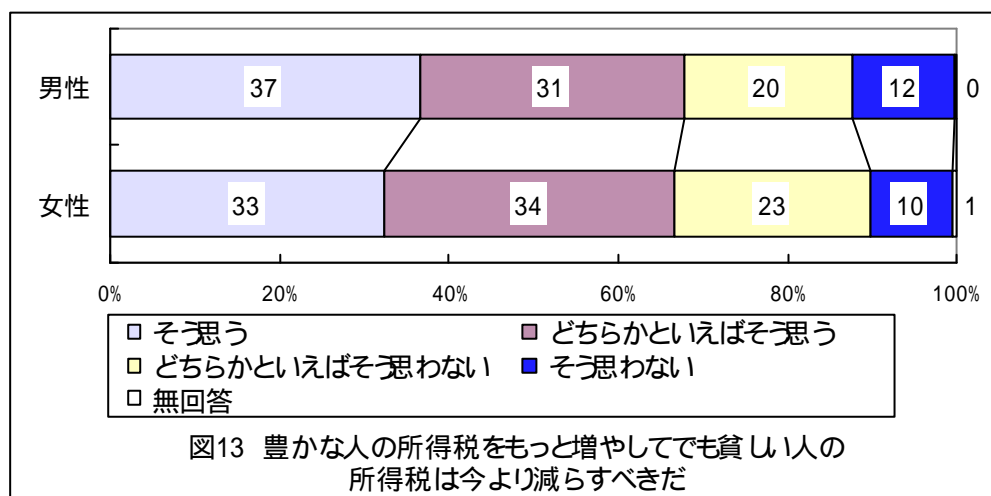
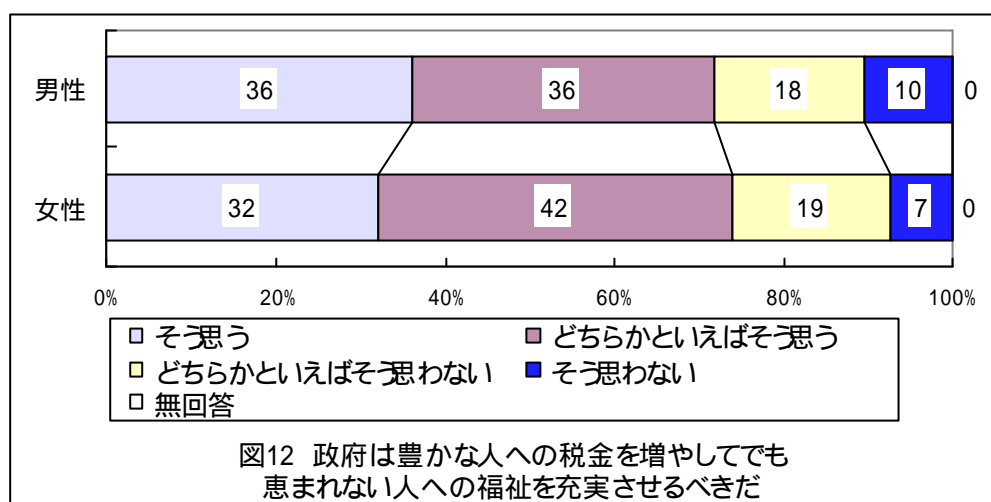


図11 今の政党の中には、自分の意見を代表してくれるものはない

4.2. 政策に対する意見

福祉の充実（図12）に対しては、豊かな人への増税を伴ってでも充実すべきという回答が、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」を合わせて、男女とも7割以上となっている。貧しい人の所得税減税（図13）への意見も強い。消費税減税のための相続税増税に関しては、男女とも賛成が5割強だが、女性の方が賛成が多い。



5 . 社会の認知、その他

高い社会的地位の達成に対する親の地位の影響（図15）や、貧富の格差の認知（図16）では、女性の方が「そう思う」という回答が多く、男性よりも認識が厳しい。

ビデオや電子レンジの保有は9割以上。一戸建ての持ち家保有は6割強なのに対し、マンション保有は仙台市では少ない。ビデオゲーム機は5割強、パソコンは3割強が保有。

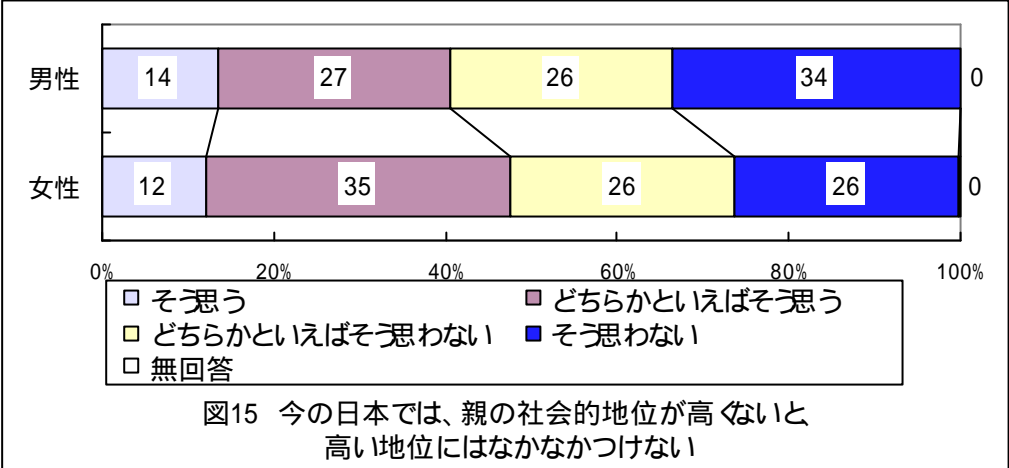


図15 今の日本では、親の社会的地位が高くないと高い地位にはなかなかつけない

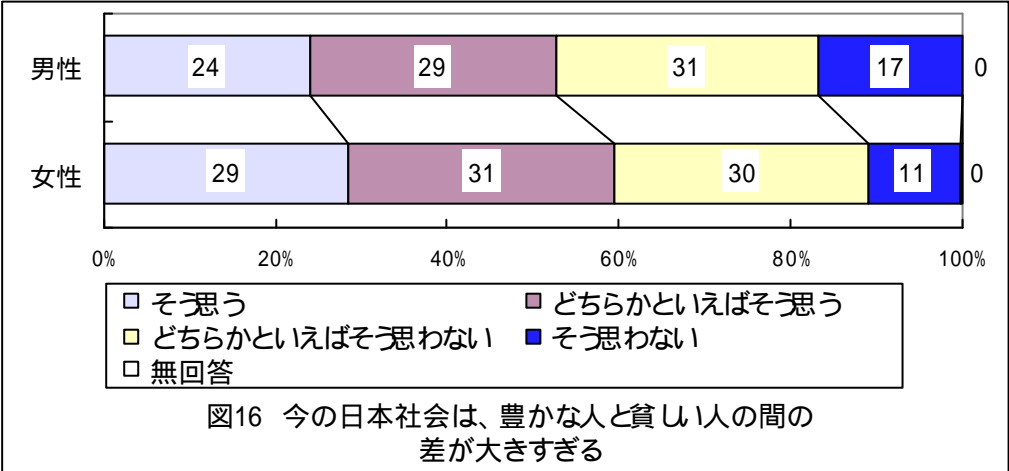


図16 今の日本社会は、豊かな人と貧しい人の間の差が大きすぎる

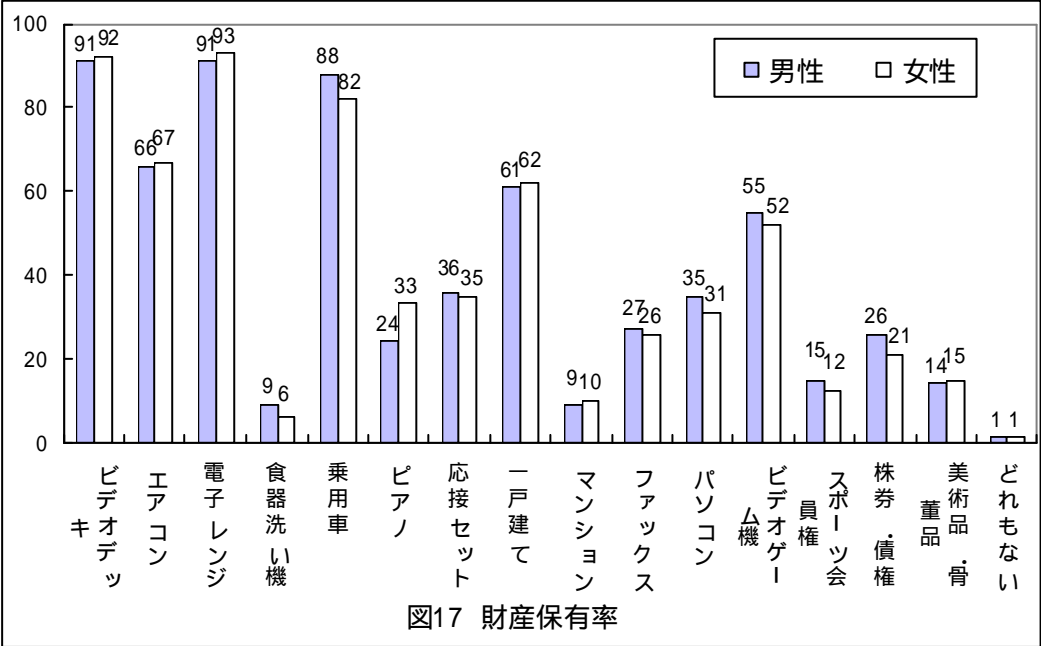


図17 財産保有率